NO　6　　総合計画　まちづくり　資料

１，子育ての各拠点までの交通や道路のバリアフリーを。
子育て広場や支援センターができても、そこへ行くまでの交通や道路に危険があり、親子が自由に通えない、状況があります。
ベビーカーを押したり、乳幼児の手をつないだりして歩くことは、予想以上に危険が多いものです。
拠点を十分に活用するためにも道のりの安全の確保が必要です。

２，子どもが遊べる道作りを。
子どもの遊びは公園やこども文化センターだけではありません。町の中のちょっとした道ばたや、家の前の道路など、身近な自由なスペースが子どもの遊びを産み、また地域の交流を産み出します。
車のための道路造りだけではなく、少し不便でも子どもが遊べる余裕のある、のんびりした道を産み出せるような都市計画が必要だと思います。
またそれは、高齢者や障害者、話し相手を必要とする子育て中の親や、日頃地域と接することの少ない働き盛りの男性、行く場所のない青少年にとっても、憩いの場になって行くはずです。

３，自然を多く残した遊び場作りを。
新しい公園ができても、きれいに整備され、決まった遊具が置かれ、自由な遊びの産まれる余地がありません。
子どもの遊びは何もないところから始まるものです。自然と触れあい、自分で遊びを工夫していく。これからの公園にはそういう視点が必要です。
ボール投げもできない、水遊びもできない、どろんこにもなれない、虫も捕れない、安全なだけの遊び場ではなく、創意工夫のできる自然の恵みに満ちた遊び場を地域の身近な場所にぜひ。

４，公園のない地域に公園を。
市内には公園のない地域がまだあります。
あそび場を求めて親子は遠くまで行かなければなりません。親子が遠くても５分から１０分くらいで行ける場所場所に公園を。

５，各区にプレイパークを。
高津のプレイパーク「子ども夢パーク」は非常に素晴らしいものです。けれど電車に乗らないと行けない人もたくさんいます。
各区にプレイパークが必要です。夢パークのように立派でなくても、ただ大きな原っぱがあり、資材が置けて雨風をしのげる小さな小屋があればなんとかなります。
緑地や遊休地を使って、各区に簡単なプレイパークを作りましょう。

６，まちづくりに子育て、子どもの視点を。
今までのまちづくりは大人中心でした。けれどこれから少子化対策を考えるとき、また青少年の健全育成を考えるためには、子育て、子どもの視点が抜けていては不可能です。
まちづくり、都市計画に子育て、子どもの視点が、意見が入るよう積極的に呼び込む工夫を。

７，新興住宅地に幼稚園、保育園、学校を。
新しい住宅建設の盛んな地域がいくつもありますが、保育施設、教育施設が不十分なため、入れない児童が溢れたり、定員オーバーで悲鳴を上げているところもあります。
人口増化が見込まれる地域には幼稚園、保育園、そしてせめて小学校は新設しなくては。
人口が減ったらほかの施設に転換すればいいのですから、減るまで我慢させようなどと考えないでください。
子どもたちの育ちに大きく影響します。